

# 2023年 おやじの山旅 中国の山

(2023年10月8日～10月13日)



## 大山登頂 1702m

(10月11日 11時40分)

## 1.趣旨

長年デンソー山岳部で活動した仲間達が定年を迎えた。  
その仲間達で2016年におやじの山旅を立ち上げた。  
かけがえのない仲間達でこれからも山を楽しみたい。(その8年目)

## 2.コンセプト

山を通して自然・郷土料理、現地の人とのふれあいを楽しむ。

## 3.計画

山域・山名 中国の山 4座

三瓶山、大山、蒜山、氷ノ山

期間 2023年10月8日(日)～10月13日(金) 6日間

参加者と役割分担

No.	氏名	役割	登山担当リーダー	保険	生年月日	年齢	血液
1	金子 清	CL・渉外	蒜山	登山S	1955/5/10	68	A
2	藤田 勝啓	SL・装備		登山S	1953/6/6	70	B
3	町田 修	SL・地形・記録	氷ノ山	登山S	1955/9/5	68	B
4	津田 廣一	記録(正)		登山S	1953/6/20	70	O
5	竹内 幹雄	気象・写真	三瓶山	登山S	1951/10/26	71	O
6	天野 広	会計		登山S	1955/4/25	68	AB
7	上田 正博	記録(副)	大山	ハイ1	1950/5/23	73	A
8	津田 利栄子	(ゲスト)					
9	鈴木 浩子	(ゲスト)					
10	上杉 由紀子	(ゲスト)					

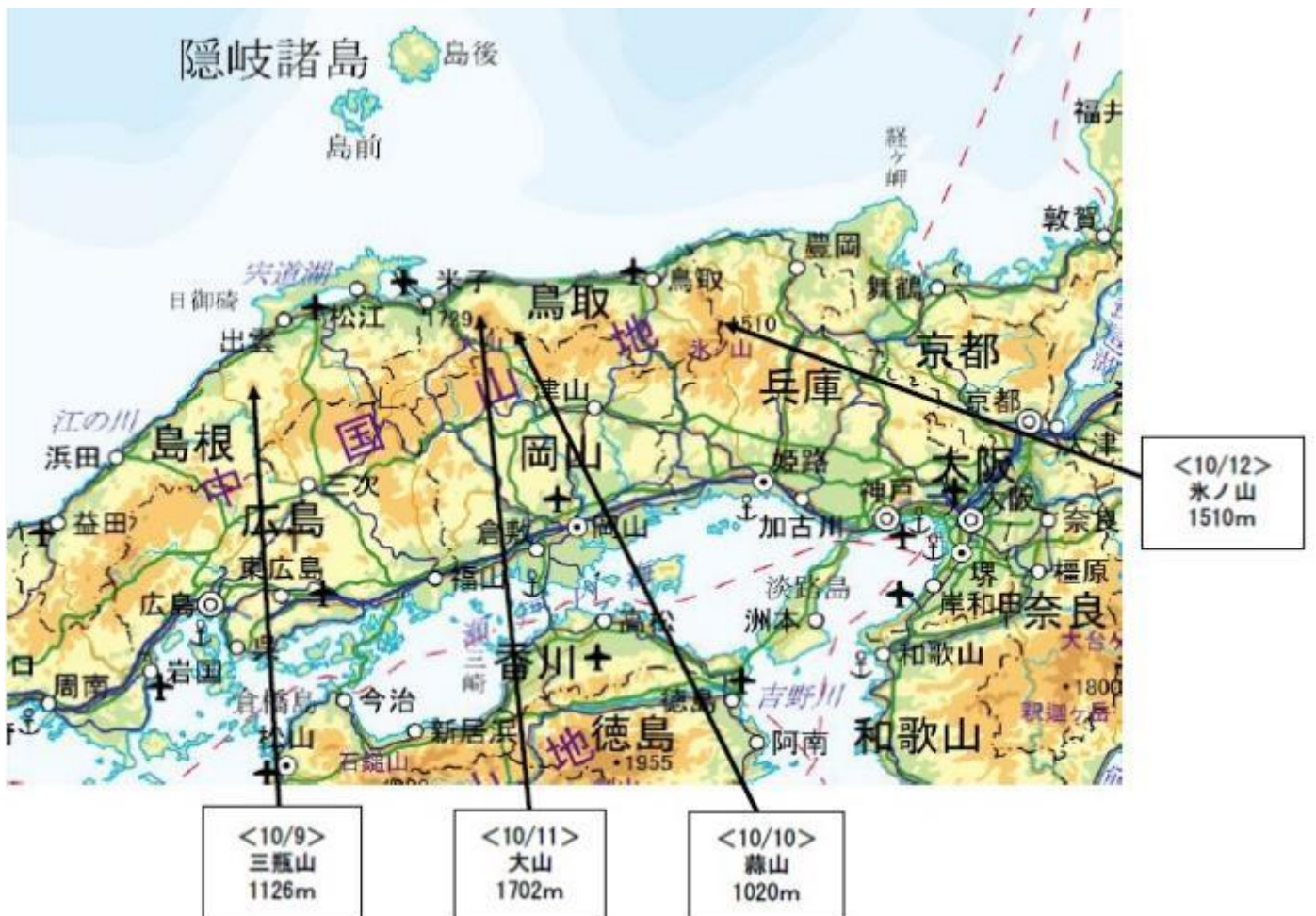
スケジュール(概要)

No.	2023年 月/日	山名	標高 (m)	登山コース	登山行動 時間(h)	担当	宿泊先
1	10/8(日)	(移動)		刈谷～国民宿舎 三瓶荘			国民宿舎 さんべ荘
2	10/9(月)	三瓶山	1126	定の松～分岐～男三瓶山～分岐～定の松	3:50	竹内	休暇村
3	10/10(火)	蒜山	1020	蒜山高原登山口～上蒜山～中蒜山～中蒜山 登山口	5:00	金子	蒜山高原
4	10/11(水)	大山	1702	大山寺～夏山登山口～六合目～弥山～大山 寺(往復)	5:30	上田	氷ノ山高原の宿
5	10/12(木)	氷ノ山	1510	登山口～(氷ノ越コース)～氷ノ山越(避難小 屋)～仙谷分岐～氷ノ山(往復)	4:00	町田	氷太くん
6	10/13(金)	(移動・ 観光)		氷太くん～天橋立(観光)～刈谷			

行き (10/8) ; 刈谷→豊田南 IC～(新名神)～吹田 JCT～(中国道)～落合 JCT～(米子道)～米子 IC～  
(安来道)～宍道 JCT～(松江道)～吉田掛合 IC→宿

帰り (10/13) ; 宿→(天橋立観光)→宮野天橋立 IC～(京都縦貫道)～大山崎 JCT～(京滋バイパス)～  
瀬田東 JCT～(名神)～草津 JCT～(新名神)～豊田南 IC→刈谷

## 中国の山 登る山(4座)





## 4.思い出の1コマ、1コマ

10月8日 移動日 (刈谷→宿へ)



SA から見た大山

10月9日 三瓶山、楽しく登ったよ



さあ～、出発だ！



これは何だ？



1 h 程歩いて1本 (880m)



ススキの原を進む



頂上直下でハイパチリ



山頂だぜ

10月10日 蒜山 小雨の中を



槍ヶ峰から望む



槍ヶ峰で1本 (皆、元気です)



おまけの埋没林ミュージアム





初登頂だ！



三角点探しかな？



中蒜山手前から上蒜山を振り返り



中蒜山でくつろいでます



出会った花4つ



おまけのアケビ

10月11日 大山 特急登山になっちゃいました



4合目 さ～休憩だ、元気モリモリ！



6合目付近、ガッツで登るよ



山頂でパチリ！ さあ～下山！



曇ってきちゃいました



キノコの群落見つけ



下山途中でパチリ



下山後の女子3人



10月12日 氷ノ山（4座目、楽しく・・・）



氷ノ山越（避難小屋前）で1本



林の道をルンルンと



振り向いてパチリ



頂上真近、急登を仰ぐ



氷ノ山も初登頂



山頂のパノラマ

10月13日 移動と観光（天野橋立）



どんな景色が見えるの？



最終日はお気楽に



実際の景色



こんな塔も・・・



みんな納得顔です（楽しかった！）



## 5.行動記録

10/09 (月)「三瓶山」1126m 曇り時々晴れ

■ルート 西の原・定め松→男三瓶山→西の原・定め松

■行動

8:35 定め松(登山口)→9:40 (880m)

→10:30 男三瓶山・山頂(1126m) 11:10 下山開始

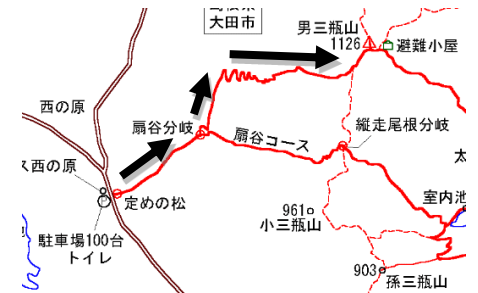
→11:38 (880m)→12:25 定め松(登山口)

登山口のある西の原に到着すると駐車場に米倉さんを見つけることができました。手を振っているのですぐに分かった。米倉さんは島根県に住んでいて1時間半の所に家があると聞き、地元の米倉さんにサポートしてもらいながら山を登れそうだ。全員集合したところで町田さんが家から持ってきたリンゴを配ってくれた。これを行動食にする。ラジオ体操をしてから出発。牧草地の草原を歩いて行くと登山道脇には電線が張っており放牧用に囲っている。登山道の脇には可愛い花が咲いている。1時間程歩いたところで一本取る。汗ばんでいたが、休憩しているうちに汗が引いて気持ちがいい。ここからワンピッチで「男三瓶山・山頂」に到着した。標高差560mを2時間程で登ることができた。

集合写真を撮った後、大休憩。行動食のリンゴをかじる。水気があって美味しい。眼下にはススキが一面に広がっている。この時期ならではの景色だろうか輝いて見える。山頂は広くてのんびりとできるので時間を忘れそうになる。下山は同じ道を降りていく。ススキの広がる草原を観ながら下りる、登山口には予定より1時間程早く下山した。駐車場で米倉さんと別れて本日の宿「休暇村蒜山高原」に向かう。(記:竹内)

参加メンバー

CL: 竹内幹雄、SL: 天野広、上田正博、藤田勝啓、金子清、町田修、津田廣一、津田利栄子、鈴木浩子、米倉得雄、



麓から見える「男三瓶山」



草原を歩いて行く



登山道脇に咲く花



「男三瓶山・山頂」



山頂で休憩する。



ススキ野原を下りる



10/10 (火) 蒜山 小雨のち曇り

■ルート 上蒜山登山口～上蒜山～中蒜山～中蒜山登山口  
全行程 8.3km 行動予定 5.0 時間)



参加メンバー

CL ; 金子清  
SL ; 竹内幹雄、町田修、天野広  
上田正博、津田廣一、津田利栄子  
藤田勝啓、鈴木浩子、上杉由紀子



上蒜山山頂

行動 (行動時間 6 時間 00 分 休憩含む)

上蒜山登山口 9 : 00 発～槍ヶ峰 (8 合目) 10 : 45～10 : 55～  
上蒜山 11 : 10～11 : 35～中蒜山 12 : 50～中蒜山避難小屋  
12 : 55～13 : 20～中蒜山登山口 15 : 00

小雨の降る中、休暇村蒜山高原を 8 : 00 に出発する。車で上蒜山登山口駐車場まで行く。車 1 台を下山口の中蒜山登山口まで移動させるため往復する。登山口 9 : 00 出発。牧場を越え、急な階段の杉林の中を進むと 2 合目に出る。1 時間半余りで槍ヶ峰 (8 合目) に着く。尾根上のコルで展望が良い。15 分ほど進むと上蒜山山頂に着く。

林の中で展望はきかない。集合写真を撮り 1 本とる。

三角点は山頂から北西に少し進んだところにあり、全員で往復し中蒜山に向う。固定されたクサリをつかみながら急坂を下り、鞍部から登り返すと中蒜山山頂に着く。急に雨が降り出し避難小屋に入る。

休憩後、雨で滑りやすい急な登山道を慎重に下る。中蒜山登山口に 15 : 00 着く。上蒜山登山口駐車場に車をとり往復する。帰路、ひるぜんワイナリーに立寄り休暇村蒜山高原へ戻る。

(記 : 金子)



中蒜山に向う



2 合目に向う



中蒜山山頂



中蒜山避難小屋



10/11 (水) 大山 1702m 晴れ

■ルート 夏山登山口→避難小屋→大山 (ピストン)



参加者

CL：上田正博、SL：津田廣一、  
町田修、天野広、金子清、  
竹内幹雄、藤田勝啓、  
津田利栄子、鈴木浩子、  
上杉由紀子

■行動

8：10 宿発→9：20 登山口発→10：25 4合目→11：40 大山山頂 (12：00 下山開始)  
→12：45 避難小屋 (6号目) →14：00 登山口着

計画では、10日に登山予定であったが、前日の天気予報では、10日は風が強く、雨模様である。急遽、皆で相談し、10日に蒜山、そして11日に大山と計画を変更した。蒜山は山も低く西の大山から雨雲が流れる事から、10日に蒜山を登る方がいいと考えたからだ。

大山は中国地方の百名山で人気も高く登山者も多い。

宿を1時間早く出発し、次の宿への移動時間も確保した。当日は天候にも恵まれ、又、登山道もよく整備されており、7合目付近の岩場を除くと大半が木道で整備されて登りやすい山であった。上り、下りもピッチが早く計画より1時間ほど短縮できた。

6合目には避難小屋があり、北壁や三鈎峰を望め雄大な景観である。9合目から続く木道を進むと山頂小屋が見えてきた。山頂は修学旅行生などで混雑と言うより、座る場所もないほど人でいっぱい。写真を撮るやすぐに下山した。頂上の展望の記憶がないのが残念です。(記：上田)



下からの眺望



夏道の階段を登る



6合目からの眺望



頂上付近も階段が続きます



大山山頂 やったよ～



## 10/12(木)氷ノ山 晴れ、時々曇り

■ルート：登山口（キャンプ場）～氷ノ山越～氷ノ山 1509.8m（登山口からのピストン登山）



メンバー

CL: 町田 修

SL: 藤田 勝啓

金子 清

竹内 幹雄

天野 広

津田 廣一

津田 利栄子

上田 正博

### ■コースタイム

登山口（キャンプ場）発:08:55→氷ノ山越発:10:10→氷ノ山着:11:30/発:12:00→

氷ノ山越発:13:10→登山口着（キャンプ場）:14:10

キャンプ場のナナカマドが真っ赤な実を付けている。平日の為かキャンパーは見当たらない。登山口からしばらくは植林の杉林が続く。氷ノ山越ルートはポイントごとにサインボードが立てられ、氷ノ山と・・・①「山岳信仰」②「ツキノワグマ／鳥取県にもツキノワグマがいる」③「旧伊勢道／鳥取から若桜を経て、氷ノ山越の峠を経て丹波へ抜けるかつての往来道／峠には名残の地蔵が立っていた」・・・等の謂れが丁寧に記されている。約1時間で氷ノ山越の峠に着いた。

鈴木さん差し入れの「いぶりがっこ」をいただく。峠には丈夫な避難小屋が立っており、内部も綺麗に整備されている。

氷ノ山は中国地方随一の豪雪地帯で、日本海から吹き付ける風雪は冷たく、冬季登山に随分役立っているのだろう。山頂に続く稜線をブナの原生林を見ながら快適に歩く。ここにも真っ赤な実のナナカマドがあったが葉はまだ青い。しばらく行くと仙谷ルートに分岐に出る。事前案内の通り閉鎖されている。ゆっくり休憩する。

昨日の大山の登りとは打って変わり、藤田 SL の歩調は息が上がらない程度にセーブされ、いわゆるコースタイムに沿った快適な歩きでリードしてくれる。道標のポストは9/10まで来た、山頂は近い。山頂のトンがり屋根も見えてきた。道は笹原の木道に変わり、太陽が燦々と照っている。山頂には東側、スキー場からの登山者も多く賑わっていた。ここでもゆっくり日差しを浴びて休憩し、往路を下る。途中、遠足登山の小学生に2グループ会う。大山でも小学生の遠足登山グループがいたが、関西、中国地方ではこの辺りの山が定番なんだろうか。

氷ノ山越で振り返ると、遠く山頂のトンがり屋根が見えた。なかなか足を延ばせない遠くの山に来た想いで峠を下った。

町田 修







キャンプ場のナナカマド



登山口



道標 1/10-9/10



氷ノ山越の避難小屋



峠の地藏



ブナの大木

⇐  
⇐  
⇐



稜線に行く



仙谷分岐で休憩

⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐



振り返れば山頂のトンがり屋根

⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐



キャンプ場に下りました



お疲れさまでした

⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐  
⇐



## 6. 特別寄稿

### 「大山の一步」

町田 修

最近よく感じるのは「速さ」です。SNS での情報拡散の速さ、デジタル化でメディア情報の速さ、もちろん交通の移動手段も映像番組の見方も、速さがマスメディアの強みとばかりに幅を利かせている。

しかし、それは一瞬にして過去に消える。そういう時代になった。

ところが山登りの一步はゆっくりとゆっくりと山頂を目指す。時代の流れに抗う数少ない行為です。

一步一步その山の風を、木を、花を、展望を楽しみながら、ああでもないこでもないと話しながら、ゆっくりと足跡を残して登るのです。後日、そういえばあの時、誰かさんとあの山に登ったね。楽しかったね。と、その刹那をゆっくり回顧咀嚼できるのです。そして次の山旅の計画への切り口につながるのです。

前置きが長くなりました。何を語りたいかというと伯耆大山の登山道が少し残念でした。

歩き始めの一步から山頂の一步まで、階段と木道の連続でした。大山の勾配そのままに階段状の登山道が延びている。だから、ゆっくりでなく駆け上がり、駆け降りる山登りになってしまう。

当日もコースタイムよりずいぶん早い時間で登り切り、降りてしまった。階段の登山道が成せる技です。

逆に、階段はリズムカルでスポーティーな歩き方ができる。本来の登山の楽しみを知らない小学生などは楽しいのかもしれないが・・・これはいわゆる登山道では無いんだよと言いたいが・・・。

登山道の勾配は自分の足首で調整できます。急な斜面は真っ直ぐでなく、九十九折りの登山道でいいのです。降りも、単調な木道と一律な階段の延長で、部分的に石ころの道が現れると、単調さと一律さに慣れた足は、石ころに躓いてしまう。竹内さんの転倒は大山の登山道らしからぬ登山道のしっぺ返しだと思います。転ばないための歩き方やストックの使い方以前の問題が登山道に有ると思います。

大山伽羅木の木の中の道を歩き、山頂の 18 番ホールギャラリー観覧席（上杉さん談）でない登山道を登り、立派な台座レプリカ山頂でない、小さな三角点を目指しながら歩きたかったのです。

伯耆の国の大山、百名山、その昔から有名でとても立派なネーミングです。

私にとっては遠くから眺める山に変わりました、あの山頂に又、立ちたいとは思いません。

随分ぼやきましたが、唯一良かったのは鈴木さん、上杉さんを加え大勢で登れたことです。

この原稿に何か気の利いた写真でもと思ったが、ほとんど写真を撮っていない。

唯一は蒜山パーキングでの大山遠望のひとコマ！

と下山後の 4 ショット！

（この一瞬が楽しい！）





# 中国地方の山で出会った花々と樹木 (2023年10月8-10月13日)

藤田勝啓

紅葉にはまだ早く、秋の花には遅い感じがする中国地方の山旅で出会った花々と樹木を紹介します。

**埋没林**とは初めて聞く名称で何のことかと思いましたが、三瓶山の火山活動によって4000年前に山体崩壊と土石流が発生し、さんべ縄文の森周辺を埋め尽くし、杉などの生きたままの森林が地層数十m下に埋没林として残ったものです。全国でも数十カ所の埋没林が発見されていて、愛知県では矢作川の天神橋付近の川床で見ることが出来るので是非、見学したい。

三瓶山の**定め**の松は江戸時代に石見銀山の初代奉行、大久保長安が道標として一里ごとに植えたのが始まりと言われている。2本あった内1本は枯れて、もう1本も枯死は避けられない状態。(大久保長安は江戸時代初期の肅正事件「大久保長安事件」として有名)

日付	場所	出会った花と樹木
10月8日	さんべ縄文の森	<b>埋没林</b>
10月9日	三瓶山	<b>定め</b> の松、ヤマハッカ、コウゾウリナ、カワラナデシコ、マツムシソウ、ツリガネニンジン、シロメ、アキノリソウ、イブアロ、ミソバ、ヤマハハコ、ヤマラッキョ、リュウノウギク、リンドウ、トモエシオガマ、ススキ
10月10日	蒜山	ミソバ、イヌタデ、ノコンギク、ヤマラッキョウ、センブリ、マツムシソウ、アキノリソウ、リンドウ、アキチヨウジ、キバナアサギリ、アケビの実
10月11日	大山	ミヤマキシミ、ナカマド、ダイセンキヤラホク
10月12日	氷ノ山	ナカマド、ブナ

※太字は写真を掲載しています



埋没林 (さんべ縄文の森)



定め



ヤマハッカ (三瓶山)



コウゾウリナ (三瓶山)



カワラナデシコ (三瓶山)



マツムシソウ (三瓶山)





ツリガネソウ (三瓶山) ⇨



シロヨメナ (三瓶山) ⇨



イヨアウロ (三瓶山) ⇨



ヤマハハコ (三瓶山) ⇨



リュウノギク (三瓶山) ⇨



トモエシオガマ (三瓶山) ⇨



ススキ (三瓶山) ⇨



ミノソバ (燕山) ⇨



イヌタデ (燕山) ⇨



ノコンギク (燕山) ⇨



ヤマラッキョ (燕山) ⇨



センブリ (燕山) ⇨





アキノキリンソウ (燕山) ⇐



リンドウ (燕山) ⇐



アキチヨウジ (燕山) ⇐



キバナアサギリ (燕山) ⇐



アケビ (燕山) ⇐



ミヤマキシミ (大山) ⇐



ダイセンキャラボク (大山) ⇐



ナナカマド (氷ノ山) ⇐



ブナ (氷ノ山) ⇐



# 蒜山・大山 紀行文

上杉由紀子

『ナヌッ！？！』

ガレージを出ると結構降ってる。今回の山行では雨には当たらない予定だっのだが……  
米子自動車道に入るまでワイパーはハイスピードでも、道の駅“風の家”に着いたら心地よい空に。  
ここは、産直の果物や野菜が激安(大好き)で地元の方々がこぞって手にしてる。

「あゝあゝあゝ ～～自分も買って帰りたい～～」ジト目で羨ましがる。

気を取り直し、食堂には一番乗りで、

【牛骨スープ、牛肉チャーシュー、蒜山大根おろし、蒜山とうもろこし】入りの“風の家ラーメン”で朝ラーし、  
己のご機嫌取り(\*^▽^\*)、所謂とんこつラーメンよりまるやかな味わい。

皆さんが三瓶山にアタックしている間は何しようか・蒜山三山制覇だと下蒜山登山口に Go。  
人気なのか駐車場は沢山の車、県外ナンバーも結構いる。稜線歩きが気持ちのいいお山でした。  
ピークで大阪、福山、広島、岡山 etc から集まった皆さんとお喋りしていると、爆走トレランのお兄さんが急にフニャフニャとヘタリ込み……(￣□￣|||)

『どしたん？』と声がけすると『目の前が真っ白に……クラクラする』って、あかんやん、低血糖やんそれ そ・こ・で・ 愛知の誇る“クッピーラムネ”を差し出すと、吸収早いからすぐに症状を回復させた。めでたしめでたし。ええ仕事しまっせ カクダイさん。

本日から二泊お世話になる“蒜山休暇村”は、ラドン温泉やディナーに高級魚のどぐろの一品なども付くコスパにすぐれた宿だ。

二・三座目は日が差したり小雨だったりの中、まあまあの急登を上蒜山へ。

登頂直前から竹内氏の美声がこだまする 『あのふ～るさとへ～帰ろかな～か～えろ～かな～♪』  
でピッタリ山頂標識前。イツァミラクル！！！！

中蒜山からの下りは黄色粘土要注意(新標語)スベるスベる。いつもより余計に踏ん張って下ります。

下山するとイツァミラクル2のダブルレインボー。エンジェルサインですね、皆さま何か良い事ありましたか？新しい事にチャレンジするのも良しとか(´艸`)

上田氏の急遽の日程入替が奏功です。初めてアケビなんかも食べれちゃったし、ほんとラッキー！

四座目の大山は秋晴れの中、相当手を入れられた夏山登山道に行く。

蒜山もそうだったけど、すごく小っちゃいお子ちゃまが頑張ってる。

未来の山ガール(いや甘いなアルピニストか)

六合目からは対面のユートピアコースの絶景が、と共に何やらガヤガヤ感が。

この正体、大阪の池田小軍団と八合目からは隊列を組んで歩行。

ウルサイことには少々自信のある自分だが、多勢に無勢 - - - 退散退散ヒュー

皆で“廣一&利栄子エクスプレス”に乗り、予定より 1h30m も速く下山。

次の宿泊地に向かえるアドバンテージを Get！！ 皆でハグやら写真撮って健闘を称えあった。

後談：次の宿に着くまでに腹へり過ぎ、食べ物屋さんを探すが見事に Idle time にひっかかり食難民に(;▽;)アゥ

必死に検索の結果『鳥取県民 98%以上が寿司と言えばココ』(ロケットニュース 24 出典)のその名も“北海道”？！？！鳥取なのに北海道 回転すしなのに回ってない 摩訶不思議

でも新鮮な日本海鳥取産ネタでレベル高し、お値段安し。機会ありましたら是非一度。

この旅も皆様にはお世話になりました。メチャ楽しかったです～。 お初お目見えの浩子さんにも海外の話とかまた聞きたいです～。 女子会部屋、控え目に言って、最高の高でした。



# 「山旅やじきた話」

津田廣一

今回登る予定の4座中、3座は未登の山だった。(大山は当然に登っているが、三瓶山・蒜山・氷ノ山は行こうと思っていたものの、何かと都合がつかず、登れていなかった。) ガイドブックにも、いずれも名山と書かれている。大山も数十年前に登ったが、とんとご無沙汰状態。そんな訳で、今回の山旅を、私は思いのほか楽しみにしていたのである。

事前の天気予報でも、良さそうだし、ワクワク気分で出発した。運転も交代なので楽である。中国自動車へ入る所で、少しまごつくも、移動は順調であった。宿へ入る前に出雲大社へ行こうという話になった。

が、2台の車は、別々に離れ離れになった状態で、出雲大社へ近づいた所で大渋滞にはまってしまった。ピタッと止まってしまって動かない。携帯で、もう1台の車の様子を確認すると、同じ様にまったく動けないと言う。“出雲そば”でも食べようと話していたが、お昼も過ぎてお腹も空いてくる。“どうしようもない。その内に動くだろう”とタカをくくっていたが、本当に動いてくれない。1~2台分の空間が出来たら、その分だけ動くだけだ。後ろにも、いつの間にか車の大渋滞が出来てしまった。前も後ろも大渋滞で、Uターンもできず、この空間を抜け出す手段がない。出雲大社まで数キロの所まで来ている筈。

その時に運転していた町田と金子を車に残し、私と妻と鈴木さんの3人は、前方の状況確認の為に徒歩で出雲大社へ向かう事に・・・途中でJAとスーパーの駐車場を見つけ更に進むが、車の渋滞は途切れることがないとうとう、出雲大社の駐車場&八雲そばまで来て3方向からの道が1つになっている事。信号の関係で左折の道優先でしか駐車場へ向かえない(我々がきた道は車が進まない)事が分かった。携帯で途中のJAとスーパーの駐車場へ車を止めて、歩いて来る様に連絡。竹内号からは、藤田のみ徒歩で合流。4人で先に食事を取る。町田と金子も徒歩で合流し、2人の食事後に6人で出雲大社を参拝。竹内号の残り3人は参拝もあきらめて、別の喫茶店で昼食となった。実は、明日が出雲駅伝という事で民族大移動が勃発していたのだ。(現地の人のお話では、普段はこんな事になっていないとの事だった。)





## 7. 参加者の所見と感想

### <金子 CL>

おやじの山旅 8 年目を迎えた。

今回は中国地方の山、三瓶山、大山、蒜山、氷ノ山の 4 座を計画した。4 座のうち蒜山が小雨の中の登山となったが他は好天に恵まれ、計画通り 4 座すべて登ることができた。

今回の参加者はゲストの津田利栄子さん、鈴木浩子さん、上杉由紀子さん、そして樫の木会会員の米倉得雄さん(島根県松江市在住)から参加表明があり、総勢 11 名(内 女性 3 名)の仲間が集まった。米倉得雄さんとは三瓶山登山口駐車場で合流し、三瓶山を案内していただいた。感謝したい。

今回はマイカーを利用した長距離運転となったが各車 1 時間毎に運転手を交代し安全運転に徹し、また安全登山に注意を払い、秋の山旅を楽しむことができた。メンバーに感謝したい。

来年(9 年目)も今年同様にしっかりした計画・準備で楽しい山旅を続けていきたい。

初日の移動途中に出雲大社へ参拝、三瓶小豆原埋没林公園の見学、最終日は日本三景・天橋立を傘松公園(股のぞき)から景色を楽しんだ。出雲大社では翌日の出雲全日本大学選抜駅伝競争の影響もあって観光客で駐車場付近は大渋滞だった。

### 【金子記】

#### おやじの山旅 履歴

No.	年	期間	山城	主な山 (標高)	参加人数
1	2016	6/25~7/3	北海道の山 (道央・道南)	羊蹄山 (1898m)	13
2	2017	6/24~7/2	北海道の山 (道東)	羅臼岳 (1660m)	12
3	2018	6/30~7/8	北海道の山 (大雪)	トムラウシ山 (2141m)	13
4	2019	6/22~6/30	北海道の山 (道北)	利尻山 (1719m)	13
5	2020	8/22~8/30	東北の山 (南部)	磐梯山 (1819m)	11
6	2020	10/16~10/25	東北の山 (北部)	岩手山 (2038m)	10
7	2021	10/6~10/14	関東の山 (北部)	谷川岳 (1977m)	8
8	2022	5/25~6/2	九州の山 (北部)	阿蘇山 (1592m)	9
9	2022	10/12~10/20	関東の山 (南部)	浅間山 (2568m)	9
10	2023	5/24~6/1	九州の山 (南部)	宮之浦岳 (1936m)	8
11	2023	10/8~10/13	中国の山	大山 (1709m)	11

### <天野 会計担当>

会計 : 自家用車の交通費計算には毎度気を使います。

感想 : ・三瓶山 気温が登るのに丁度良く、楽しく登れました。花が綺麗に咲いていて良かった。頂上でゆっくり休憩できました。下山時のススキ原も素敵な景色だった。

・蒜山 朝から雨模様でカッパのズボンを履き、上着は着たり脱いだりの繰り返しでした。下りの路は険しく又、とても滑るので、緊張の連続でとても疲れました。2 回転倒しましたが、怪我には至らなくラッキーでした。

・大山 風が涼しく快適に登れましたが、石段と木段が整備され過ぎてトレーニングのようでした。頂上付近も小学生の遠足などで込み合っていてゆっくりできず“いまいち”でした。

・氷ノ山 しっとりとした山路をゆったり登れました。頂上では雲が取れて、抜群の眺望を楽しめました。

・宿 さんべ荘では猪料理を堪能、休暇村蒜山ではのどぐろの塩焼きが最高、氷太君では宿泊料に見合わない美味しい料理でとても良かったです。



<竹内 気象・写真担当>

気象担当：

雨雲レーダー

10/8 (日) 移動日 晴れ

10/9 (月) 三瓶山 曇り時々晴れ

10/10 (火) 蒜山 雨時々曇り



10/11 (水) 大山 晴れ

10/12 (木) 氷ノ山 晴れ

10/13 (金) 移動日 晴れ



10/10 の蒜山は雨時々曇りだったのでカッパを着ての山行となる。

10/10 以外は雨に降られず、展望も良く、良い山行ができた

写真担当：

蒜山以外は天候に恵まれ、写真もそれなりに撮ることができて良かった。

感想：

中国地方で過去に登った山は大山だけである。

今回、大山も含めて四座登れたのは良かった。

なかなか中国地方には行かないので、今回行くことができたのは良かったです。

<町田 SL、地形・記録担当>

三ヶ年計画に短期プランを入れた (9日→6日) 最初のイベントが今回の中国地方の山旅。如何だったろうか？

個人的には7日、8日の連続山行はちょっと欲張りすぎかな、4日ぐらいがよさそうな気がした。欲を言えば、ベースの宿を固定し、四方の山々に出かけるようなプランニングができるとベストだね。次年度の四国・東北の山旅につなげていきたい。

年度	2,023		2,024		2,025	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
C案	◆5-6月 南九州の山旅	◆10月 中国の山旅 (短期)	◆5-6月 四国の山旅 (短期)	◆10月 東北北部の山旅	◆5-6月 北海道の山旅	◆7月 スイストレッキング
	宮之浦岳・開聞岳 韓国岳・高千穂峰	伯耆大山・氷ノ山 蒜山・三瓶山・他	石鎚山・瓶ヶ森 笹ヶ峰・三嶺	白神山地、烏海山、 姫神、和賀岳、大平山、乳頭 山、焼石岳、神堂山、五葉山	積丹岳・暑寒別岳・礼文島 薬古岳・アポイ岳・他	・マッターホルンエリア ・グリンデルワットエリア
		◆11月第2W 奄美大島の旅 (4日間)	◆8月 東北部の山旅 (短期)			◆11月 20周年記念行事
		湯湾岳694.4m&観光	会津朝日岳・守門岳 船形山・朝日岳			・記念登山 ・レセプション
	☆中国の山に加え奄美大島も楽しむ ☆天野♡ ツールドモンブラン		☆四国の山を楽しむ ☆東北の山を味わい尽くす ☆上田♡ 世界一周旅行		☆一度は海外の山にも遊ぶ ☆未登頂の積丹、アツモリツウの礼文へ ☆「おやじの山旅」メンバー全員♡ 70歳オーバー	



### <津田 記録担当>

今回の山旅も楽しかったです。旅にトラブルはつきものですが、その都度、皆で知恵を絞って対処していくのも面白いものです。初日のトラブル（やじきた話としてまとめました）や、大山と蒜山の登山日の変更等、上手く対処できたと思います。移動を利用した最後の観光も良かったです。

山の印象は、4座共、比較的楽なハイキング感覚の山であった。齢を重ねるにつれ、アグレッシブな山より、この様な軽めの山がよくなってきているのかもしれない。

三瓶山・・・急な登りも少なく、のんびりと登れる山ですね。男三瓶山のピストンだったが、女三瓶や子三瓶、孫三瓶へも機会があれば、時期を選んで登ってみたいなあ。地元の米倉さんと一緒に登れたことも、良かったなあと思えます。

蒜山・・・小雨の中の登山ではあったが、景色のいい山だった。この山も花がよく目について、又の機会をみつけて登ってみたい山だ。

大山・・・麓から頂上まで、ほとんど階段と木道になっていて、整備しすぎだろうと思える山に変わっていた。過去に2回登っているが、その時の方が私は好きだ。頂上は、子ども達の団体パーティと一緒に休むもできない様な感じだった。人の手が入りすぎて、正直、不自然な印象が残った。

氷ノ山・・・過去に何回か？計画したのだが、残念ながら事情があって行けなかった山だ。今回の初登頂は嬉しかった。登山口から1hぐらい登って氷ノ山越に到達すると、なだらかな尾根道歩きとなる。最後、少し登るが登りきると頂上の三角屋根の小屋が見えて山頂だ。広い頂上で、景色も良くゆっくりと大休止することができた。

大山以外の三瓶、蒜山、氷ノ山は初登頂でもあり、ベストな山旅であったと思う。次回の山旅にも期待したいなあ。皆さん、ありがとうございました。

### <上田 記録副担当>

今回は大山を主として、中国地方の4山を登りました。

蒜山では少し雨にも降られましたが、小ぶりで天候にも恵まれ、10月とは思えない気温の高さでしたが、どの山も楽しく登る事ができました。

今回は二人の女性ゲストが参加頂きさらに楽しい登山となりました。

特に温泉好きな私にはさんべ荘の温泉の種類と風情ある浴槽の数々には大いに満足しました。

また蒜山高原の風景は、八ヶ岳に似た草原が広がりリゾートに来た気持ちになりました。

8年間の親父の山旅を続けてくれたのも、メンバーの皆様の優しさと支援のお陰であり感謝しています。

【有難うございます。】

### <鈴木 浩子さん>

愉しい秋の山旅をありがとうございました。

秋、中国地方の山旅、皆さんとのご一緒が叶い、秋の好日を歩くことができた。

新しい出会いもまた、山旅ならではのであろう、心地よい。

皆さんが一つひとつ丁寧に練られた計画の山旅、計画はじめ、何らひとつとして担うこともしない私を同行させて下さり、有り難さでいっぱい。

あと、数回であっても、その数回ご一緒を願わずにはられない。

動ける躰は動くことから、歩ける躰は歩くことから、皆さんとの山旅が叶えられるよう、歩くことは続けたい、続けなければ。



<津田 利栄子さん>

今回も無事に山旅を終えることができました。本当に皆さんに感謝です。  
浩子さん、由紀子さんと一緒に過ごすことができたことも、とてもうれしく思っています。  
最近は何を感じる事が多く、“後2年！”と一緒にできる様に頑張ります。どうぞよろしくお祈りします。

<米倉 得雄さん（特別参加）・・・樫の木会 松江市在住>  
中国の山「三瓶山」へ参加して

大山隠岐国立公園三瓶山地区に属する三瓶山は島根県の中央部に位置し、中国地方で最も新しい火山です。「出雲風土記」のなかでは、三瓶山と大山を杭にして島根半島を引き寄せたという「くにびき神話」として登場します。

町田さんとは平成27年5月に大山登山の時以来でしたが、他のメンバーの方とは久しぶりや初めての方がほとんどです。西の原の登山口前の駐車場で合流し、天候にも恵まれ順調に登頂できた

のが何よりでしたが、1000m付近から山頂にかけて広がるススキの原との出会いは絶好の環境で、三瓶山の魅力の一端を紹介できたと思われ幸運でした。普段OB会の登山計画書や報告書で活躍されているたくさんの方々とお会いでき、お話しできたことも何よりでした。いつまでもアクティブに行動されるOB会に期待いたします。



米倉さん、お元気でした

参考；会計報告

項目	金額(円)	備考
宿泊費	564,060	全日程6日間参加(5泊);60,638円/1人 (5日間参加(4泊);51,658円 1人 3日間参加(2泊);27,300円 1人)
ドリンク代等	26,690	
交通費	72,416	全日程参加者 8,846円/1人
(車維持費)	(13,735)	交通費に含む
(ガソリン)	(23,491)	交通費に含む
(高速代 +駐車料)	(35,190)	交通費に含む(高速代;33,990円 駐車料代;1,200円)
合計	663,166	

【編集後記】

8年目の秋の山旅が終わりました。思えば、よくも8年間も続いたものだとも思えます。報告書の編集も担当し続けているのですが、段々と編集作業をする体力がなくなっている様に思えます。編集の体力と言うと怪訝に思われるかもしれませんが、以前は、深夜まで作業しても平気だったのが、今は無理です。夜は9時を過ぎると頭が働かない。校正していて、もっといい表現がないかな？と思ってもひらめかない。原稿をコピーして貼り付けると、原稿通りに張り付いてくれない。どこが違うの？と再チェックしてやり直すが、こちらの思う様にならない。こんな事が重なると、あきらめが早くなって、今日はダメだ。明日にしようか？となってしまふ。短期間でできた編集作業が、時間がかかるようになってきた。正に体力ダウンである。裏技を覚えて効率化しているはずなのに、体力ダウンに負けている。あ～、嫌になっちゃうよ～。

10年計画、残り2年。山旅も編集も頑張らなくちゃ！ 皆さん、よろしくお祈りします。